

2014(平成26)年度 獨協中学校＜第1回＞入学試験問題 2014・2・1

〔国語〕

○ 実施時間 【8：30～9：20】（50分）

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は 一 ～ 四 、13ページまであります。
- (3) 答えはすべて指定された用紙の解答らんにはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったら、手をあげて監督^{かんとく}の先生に合図しなさい。
- (7) 「終わり」の合図があつたら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
 - ・ 字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「」や（ ）なども一字と数えること。
 - ・ 文末表現は、「こと」、「から」など、問いにふさわしい形にし、文の終わりには句点〔。〕をつけなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

次の――のカタカナを漢字に改めなさい。

① 避難クンレンを熱心にやった。

② 呼吸キカンの具合がよくない。

③ ミズべで子供たちが遊んでいる。

④ 学級通信をスる。

⑤ おこづかいとして使えるキングは少ない。

⑥ 横綱がトヒヨウ入りする。

⑦ 美術の時間にハンガをほった。

二 次□には共通の言葉が入ります。それぞれ漢字一字で答えなさい。

台風で出発が□びてしまった。

⑧ となりの家まで□焼した。

雨で試合が順□になる。

校長先生の□像がある。

⑨ 度□だめしに夜のお寺へ行つた。

彼の発言に□のすく思いがした。

通□を通して会話をする。

いい□ばかりしてはいけない。

〔 〕
も無く涙なみだが出た。

三
小学四年生のハヤトは、春休みに母（現在ハヤトは一緒に住むこの母を「ヒトミさん」と呼んでいる）と離婚して大阪に住

む「父さん」のもとを一人で訪ねて行きます。次の文章は「父さん」が経営する飲食店にハヤトが「父さん」といつしよに入ったところから始まります。これを読んであとの問いに答えなさい。

「ハヤト、ハンバーグライスでいいか？」

突然、父さんに尋ねられる。

I

昼ご飯のことらしいと気付いて、ハヤトはうなずいた。

「近藤くん、後で二階にハンバーグライス、二つ上げて。それとアイスコーヒーにオレンジジュース一つずつ」

父さんはカウンターのお兄さんに指示すると、ハヤトに階段を上がるように言った。

二階にはいくつものテーブルが並んでいたが、お客さんはいなかった。父さんは階段近くの席にハヤトを座らせる

「はあ、やつと落ち着いたな」

父さんは奥の壁にもたれるように立つと、小さく溜め息をついた。そこには小さな運搬用のエレベーターがあり、下で作った料理が上がってくるらしかった。

「おつ、来た来た」

一分もしないうちに、一階から飲み物が上がつて来た。父さんは扉とびらを開けてグラスを二つ取りだし、オレンジジュースをハヤトの前に置いた。

「なかなか便利だろ？ 熱いものとか、グラスをいっぱい持つて階段を上がると危ないからな。これがあつて、大助かりだよ」

①「すいね」

本当はたいして驚いていなかったけれど、ハヤトは言った。自分の父さんなのに、前と同じような感じで話せないのは、どうしてだろう。

「それにしても、ハヤトはでっかくなつたなあ。前に会つた時なんか、俺おれの腰こしくらいまでしかなかったのに」

Ⅱ

「もう少し大きかったと思うけれど——
どのみち、それは二年くらい前のことだ。」

「どうだ、ちゃんと勉強してるか？」

「まあ、少しはね」

「家の手伝いとかも、やってんだろうな」

「まあ、少しはね」

「友だちも、たくさんいるか？」

「やっぱり……少しはね」

「何だよ、おまえは何でも少しなんだなあ」

父さんは笑ったけれど、本当にそうとしか答えられないんだから仕方がない。

それからハヤトは、父さんと向かい合って、いろいろなことを話した。話している最中に、下からエレベーターでハンバーグライスは上がって来る。一枚のお皿に、ハンバーグと御飯ごはんが一緒にのっかっていて、少しの野菜が添そえてある料理だ。^②ハンバーグにかかっているのがデミグラスソースじゃなくて、カレーなのがポイントだろうか。

「こいつは、うちのナンバーワン・メニューでさ。ランチタイムは、こればかり出るんだ」

そのお皿を見て、ハヤトは思わずニンマリ笑ってしまった——まったく同じものを、昔、父さんが作ってくれたのを思い出したからだ。

まだハヤトが小学校に入る前——確かヒトミさんが用事で出かけてしまった日曜のことだった。

その日は朝から一緒にテレビゲームをやったり、団地しんちの芝生でフリスビーを投げっこしたり、一日中父さんに遊んでもらった。それから夜になって夕食に何を食べるかという話になり、最初はファミリーストランに行くつもりだったのに、いきなり父さん

が作ってくれることになったのだ。

「へへへ、パパ、がんばっちゃったぞ」^③

で上がったのは、お皿にゴハンを盛り付け、その横にレトルトのハンバーグを載のせ、さらにレトルトのカレーを半分ほどかけたものだった。栄養のバランスを考えたのか、コンビニのサラダと一緒に出てきたと思う。

今思い返すと、^④Ⅲ どの部分で父さんが頑張がんばったのか、よくわからないけれど——それだけの料理が、すごくうれしかった覚えがある。

というのも、今でもその傾向は変わっていないが、ヒトミさんは自分以外の人間が台所きょうに触るのを、とてもイヤがっていた。何でも調理器具の置き所や調味料の並べ方にまで、ヒトミさん流のこだわりがあるらしいのだ。次に使う時、必要なものがあるべきところがないのがイヤなのだという。

だから台所には、ハヤトも父さんも近づけなかった。うかつに使ったものを放り出しておいたりすると大変で、さすがに小さいハヤトに強い言い方はしなかったけれど、父さんには本気で文句を言っていた。

「なあに、ちゃんと後始末しておけばいいんだよ」

確かに父さんの言う通りなのだけど、怒おこられるかも知れないのに、ゴハンを作ってくれたのがうれしかった。ついでに、自分の好きなものばかりだったのも。

「いただきます」

さつそくハヤトはハンバーグを食たべた。

「どうだ、うまいだろう」

ハヤトが食べるのを見て、父さんはきゅつと目を細めた。^⑤

「うん、おいしいよ」

それはウソのない感想だったけれど——ハヤトが思っていた味とは、少し違ちがっていた。変な風に聞こえるかもしれないけれど、

おいし過ぎるのだ。小さい頃^{ころ}に作ってくれたものに比べれば、ずっと、ずっと、おいしいのだ。
ハンバーグもレトルトなんかじゃない、ちゃんと手作りしたものみたいだし、カレーも（ハヤトには少し^ち辛めだけど）クセにな
る味だ。いくらかは知らないけれど、ちゃんとお金の取れる味なんだろう。

でもハヤトには、父さんの料理なら、もっとヘンじゃないとつまらない。

* 原文を一部改めました。

（朱川湊人^{しゅうかわみなと}『オルゴール』より）

問1 IⅢに入る言葉として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア さすがに イ どうやら ウ はじめに
エ いつでも オ いったい カ かならず

問2 ①とありますが、何が「すごい」のですか。その内容が述べられた一文を探し、初めの五字をぬき出して答えなさい。

問3 ②の「ポイント」について説明したものととして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア このハンバーグライスが一番売れている理由。
イ 父さんのハンバーグライスならではの^{とくちょう}特徴。
ウ ハヤトがハンバーグライスを食べたいと思う理由。
エ ランチタイムにふさわしいハンバーグライスの特長。
オ ハンバーグとライスの相性の良さ。

問4 ③にこめられた「父さん」の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 息子にいいところを見せることができて得意げな気持ち。
イ ヒトミさんより自分の方が料理がうまいことをほこる気持ち。
ウ 息子と一日遊んでやることで^{じゅうじつかん}充実感にひたっている気持ち。
エ ファミリーレストランに行けなくなった分を取り戻^{もど}そうとする気持ち。
オ 息子の^{きげん}機嫌が悪いのでなんとか機嫌をとろうという必死な気持ち。

問5 ④のようにハヤトが思った理由を六十字以内で答えなさい。

問6 ⑤には「父さん」のどのような気持ちが表れていると考えられますか。最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ハヤトがハンバーグライスを食べる姿を見るのがうれしく満足している気持ち。
イ ハヤトがハンバーグライスを気に入るか見極めようという^{しんけん}真剣な気持ち。
ウ ハヤトがハンバーグライスを食べる様子をしっかりと目に焼き付けようという気持ち。
エ ハヤトがハンバーグライスを食べる姿に感動して泣きそうなのをこらえる気持ち。
オ ハヤトがハンバーグライスを食べ、一緒に暮^{いしょ}らしていた頃^{ころ}を思い出してくれるのを期待する気持ち。

問7 — ⑥「ハヤトが思っていた味」とはどのようなものですか。四十五字以内で答えなさい。

問8 に入る言葉として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア もったいなかった
- イ なつかしかった
- ウ おもしろかった
- エ 物足りなかった
- オ うれしかった

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いま、在来種と外来種、合わせて二五〇種類もの魚が多摩川にすんでいます。外来種の増加はAの痛い問題ですが、いっぽうで多摩川はそうした魚たちもいっしょに養えるほど豊かな川だ、という言い方もできるでしょう。

【a】もともと多摩川は魚にとってはすみづらい川でした。

本来、多摩川の在来種といえる魚はいったい何種類だと思えますか？

外来種としてやってきて根づいてしまっている魚もありますが、ひとまず明治時代より前からいる魚を在来種とすると、その種類はほんとうにわずかです。

おもな魚をあげれば、上流にはイワナ、ヤマメ、カジカ。

中流にサクラマス、ウグイ、コイ、ギンブナ、ウナギ、ナマズ、アブラハヤ、ニゴイ、シマドジョウ、スナヤツメ、ジユズカケハゼ。

下流にハゼ、スズキ、ボラ、ヨシノボリ、ウキボリ、スミウキボリ、シラウオ。

ぜんぶでおよそ二〇種類ほど。これがもともと多摩川にいた魚です。

どうしてこんなにすくなかったのかといえば、じつは多摩川の流れの速さがその大きな理由です。

多摩川は標高一九五メートルの笠取山から流れはじめますが、そこから羽田の河口までは一三六キロメートルと距離があまりありません。山から海まで一気に水がかけおける川なのです。

富山県の黒部川を知っているでしょうか？

急峻な北アルプスから流れ落ちるこの川は、日本を代表する急流として有名ですが、じつは多摩川はその次、日本のおもな川の中では三番目に傾斜がきつい川なのです。

【b】ダムや堰がなければ、おそらく多摩川下流にかかる東京・大田区のガス橋のあたりまでは瀬のはずです。そこから海

までは一〇キロメートルほどしかありません。

ふつうの川であれば山から海までもっと距離きょりがあり、源流から河口までは変化にとんだ多様な環境かんきょうがあります。けれど、多摩川の場合は、急流がそのまま海に流れこむため、環境の変化にとぼしく、すめる魚が限られていたのです。

①。①、流れが速ければ水があたためられるひまありません。

多摩川の源流部の奥多摩おくたまにはわたしもよく遊びに行きますが、真夏でもその水温は一八度を超こえません。手を入れるとヒヤッと、かなり冷たく感じます。むかしはその冷たい水が海までそそぎ、魚がすむにはこれも悪条件でした。

流れの速さ、水温の低さ。そのために多摩川はほかの川と比べても **B** 折りに魚種の少ない、貧しい川“だったのです。しかし、それがなぜ、これほどまでに豊かになったのか。

魚の種類も多いのですが、その数がまたすごいのです。むかしはコイなんてめったに釣つれませんでした。いまは初心者でも六〇センチを超える大物がいくらかでも釣れます。

わたしが多摩川の魚類調査をはじめたころ、魚がたくさんとれることにまずおどろきました。網を一回入れただけで、コイ、フナ、ウグイ、アブラハヤなどがどつさりとれる。しかもみんな丸々と太っています。

わたしの子ども時代だって、いまの一〇分の一もいなかったでしょう。もっとむかしを知っている漁協せんけいの先輩たちに聞いても、「こんなに魚はいなかった」とだれもが口にします。

その魚影ぎょえいの濃こさは、わたしがこれまで全国各地を歩いて調査してきた川の中でもダントツです。

② いったい、どうしてこんなに魚がいるのか？

その理由は、水の中に揺れるクレソンが教えてくれます。

多摩川では、下水処理場と川をつなぐ水路に野生のクレソンが生えているのですが、どれも葉が青々として、軸じくも太くて立派です。ひとつつまんで口に入れば、ほろ苦くとてもおいしい。

じつは魚が増えた理由は、こうやってクレソンが大きく育った理由と同じ。下水処理場から出る下水処理水なのです。

下水処理水は、きれいなだけでなく、じつは生き物たちにとって栄養豊かな水です。そこには「チッソ」と「リン」という有機物がわずかに含まれ、それがまず水中の微生物ひせいぶつである **C** のエサとなります。

すると、繁殖はんしよくした **C** をエサに、こんどは **D** や小魚が増え、さらにそれらをエサにする **E** たちも増える。そ

うやって生き物が増えれば、水中に排はせつ物ぶつ（フン）も増え、それもまた有機物なので川を豊かにしていきます。

③ おそらく ⑦ こうしたサイクルを、① 多摩川は水質が ② よくなってきた一九八〇年代から ④ 人知れず ⑤ おこなってき

たのでしょう。

そのころの多摩川は完全に見捨てられた川でした。そこにどんな生き物がいるか、水中にどんな営みがあるか、関心を持つ人はだれもいませんでした。でも、じつは水面下では着々ちゃくちゃくといのちが育まれていたのです。

下水処理水は、川をきれいにしただけでなく、生き物たちにとっては **F** の水“でもあったのです。

（山崎充哲『タマゾン川く多摩川で命を考える』より）

* 原文を一部改めました。

問1

□ A・Bに入る言葉を、漢字一字でそれぞれ答えなさい。

問2

【 a s cに入る言葉として最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア または イ さらに ウ たしかに

エ いわば オ しかし カ もし

問3

①について、以下の問いに答えなさい。

(1) 多摩川に在来種の魚の種類が少ないことについて説明した次の文の「 I・IIに入るふさわしい表現を、文中からそれぞれ五字でぬき出して答えなさい。

多摩川に在来種の魚の種類が少ないのは、多摩川の「 I」と「 II」によるが、「 II」がもともとの理由と考えられる。

(2) 多摩川にくらべて、ほかの川で在来種の魚の種類が多く見られたのはなぜですか。五十字以内で答えなさい。

問4

魚影の濃さの意味として最もふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 魚全体の種類が多いこと。 イ 魚全体の数が多いこと。 ウ 外来種の魚の種類が多いこと。

エ 在来種の魚の数が多いこと。 オ 魚全体の生育が良いこと。

問5

②のように言えるのはなぜですか。八十字以内で答えなさい。

問6

□ C〜Eに入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを次のア〜オの中から選び、記号で答えなさい。

	ア	イ	ウ	エ	オ
C	魚	水中昆虫	プランクトン	水中昆虫	プランクトン
D	水中昆虫	プランクトン	魚	魚	水中昆虫
E	プランクトン	魚	水中昆虫	プランクトン	魚

問7

③は、⑦⑧のどの言葉にかかりますか。記号で答えなさい。

問8

□ Fに入る最もふさわしい言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いのち イ 出会い ウ 上水道 エ 揺らぎ オ 循環

問9 次の各文について、本文の内容と合っているものには○、合っていないものには×をつけなさい。

ア 多摩川にすむ魚の種類は、明治時代より前に比べていまは十倍以上になった。

イ 地域の人々は、たくさんの種類の魚がすめるように、多摩川をきれいにしてしようとした。

ウ 下水処理場は、多摩川をきれいにしただけでなく、豊かな川にすることにも役立った。

エ 地球の温暖化が進行する中で、多摩川もまた温暖化し、たくさんの種類の魚がすむようになった。

オ 一九八〇年代になって、ようやく多摩川は江戸時代までの豊かさを回復することができた。

受験番号
氏 名